

タイトル	脳幹梗塞の利用者に対する麻雀レクリエーションを用いた認知症予防への効果
------	-------------------------------------

事業所	デイサービスセンター初音の杜		
発表者：須賀美代子・佐藤悦子 (すがみよこ・さとうえつこ)		アドバイザー：鷹野賢一	
共同研究者：倉田光章			

電 話	042-691-8289	E-mail	hatune@8289.sumomo.ne.jp
FAX	042-691-1772	URL	www.kairakuen2830.sakura.ne.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	平成 23 年 4 月に開設。定員 18 名、法人内に介護老人福祉施設、短期入所、居宅介護支援、認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護を併設。小さな規模でゆったりとした過ごせる環境の中、個別ケアの充実と認知症ケアに特化した取り組みに取り組んでいる。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

レクリエーションに毎回参加をしてもらえない、既往に脳幹梗塞の利用者がおり、自ら積極的に他ご利用者と話を持とうとしない状況であった。そこで活動・コミュニケーションを増やし、ひいてはどうしたら自ら手先・脳を使って頂けるか、他ご利用者と交流を持っていただけるかが課題であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

(株) シグナルトークのHPによると、麻雀は実際、言葉に出さないが「リーチか…」「そこでドラ切る？」など脳内では言語的に激しく考えることで、左脳の言語野や、情報や記憶を一時的に保持し組み合わせて答えを出す機能に関連する部位が活性化された、とあり そのご利用者に積極的にレクリエーションに取り組んで頂けるよう、またそれを通して他ご利用者との会話が増すことを目的とし、麻雀レクリエーションでの認知症予防に取り組んだ。研究は進行段階であるがレクの充実はもちろん活動意欲を持ち会話や、デイへの参加意欲が増すことで、介護予防認知症予防につながられるかを期待した。さらにご自宅での活気が増すことで家族の介護疲れの軽減が図れることを期待した。

《3. 具体的な取り組みの内容》

レクリエーションの時間に 1 時間程麻雀を取り入れ、活動、会話を中心としたコミュニケーション、

帰宅後の自宅での変化を確認することにした。

《4. 取り組みの結果と考察》

当研究の結果、ご利用者から「今日麻雀できる？」と聞かれるほど積極的に麻雀に参加をさせていただき、職員との会話も増え心も開いて頂けた。また、ルール・上がり方等の確認の為ご利用者同士で教え・教えられの関係が出来上がりご利用者間の会話も増えた。ゲーム中は、小さな「牌」を並べたりすることで手先を使ってもらい、上がる為に役を考えるので脳も使って頂けた。ご自宅でも、ご家族に「今日麻雀をした」と楽しそうに話すようになり、麻雀をきっかけにご家族との会話も増えたとのことであった。ご利用日にはご自身で積極的に準備もしていると話もあった。よって数値データはないが、本研究について期待される成果が得られたものと考えられ、他の利用者も含めて研究を続けて行きたい。

《5. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことも説明し、同意を得。参考文献：HP 株式会社シグナルトーク（2014.6.30 閲覧）

【メモ欄】